

はあとほっとステーションしまだ

『医療安全』

2005 2

Vol.27



島田病院

日本の医療は、世界と比較して優秀だと思われませんか？

確かに、国民皆保険制度の中で保険証一枚あれば、どの地域でどんな状態となっても、経済的なことをあまり心配せずに、一定のレベルの診療を受けることができる国というのは、誇れると思います。しかし、一方では、患者取り違えや医師からの指示受けでの投薬内容、量の間違い、手術における技術的なミスなど、医療現場におけるいわゆる医療事故の報道は後を絶たず、患者さんからの医療不信はますます根深いものとなっているのも事実です。本当に、日本の医療は世界の一流と言えるのでしょうか？

この問題を考えるために少し歴史を振り返ってみたいと思います。日本の医療体制は、戦後の荒廃の中からアメリカの指導で徐々に整備されてきました。当初は、ものがなく、毎日の食料にも事欠く時代でした。当然、体調が悪くなっても、まともな治療を受けることができません。診療所や病院といった医療機関はなく、医師や看護師もいないし、薬や治療材料もありません。行政が建てる公的医療機関だけでは、こうした量的な不足を補うことは不可能でした。そこで地域の医療を民間の医療機関に頼らざるを得ませんでした。現在、各地域で中核的医療を担っている民間病院の多くは、診療所からスタートし、徐々に収容施設としての入院機能を膨らませ規模を大きくしてきたという経緯を持っていることは、こうした歴史を物語っています。

そして、量的には、不足する高齢者施設(老人ホームなど)の代わりをするほどに病院病床の数は増加しました。経済成長が鈍化し、緊縮予算となると、行政にとって病床の供給過剰は国民医療費を引き上げるものだと、さまざまな方策を用いてその全体数の制限に乗り出しているのが、現在の状況です。

同時に、量的整備が整ったとはいえ、わが国の医療の質は国際水準に比較してどうかという議論を生みました。いわば質の問題です。医療における質を評価したり、比較したりすることは、実は容易なことではありません。ある人が「オレの治療は一流だ」と主張したとします。それを証明したり、他の人と比べることが、簡単ではないのです。どのような人に対して、どんな方法を使い、そして結果はどうだったのかを、条件を揃えて比較しなければならないからです。

しかし、医療における安全の問題で、日本が立ち後れていることが分かりました。そこで、私たちを含めた個々の医療現場

においても、また、行政主導でも、多くの取り組みが始まっています。患者さんの確認作業がその一つです。その方が間違いなく、その処置を受けるご本人であることを確認するというのは、

医療安全の第一歩となるからです。確かにこうした確認作業は面倒ですし、手間がかかります。慣れないために、今までのやり方の方がスムーズだというご批判も耳にします。しかし、医療の質は患者さんの安全から始まると確信しています。

しかしながら、本当の解決方法は、別にあるとも思っています。それは、人員の問題です。世界の他の国と医療体制における比較のデータがあります。その結果、日本の医療体制では、人口あたりの病床数が多く、平均の入院期間である平均在院日数が異常に長いこと、また、一病床あたりの医師や看護師数がきわめて少ないこと、さらに、年間の外来受診頻度が高いことなどが特徴として指摘されています。病床数が減ると計算上、人員配置は満たされますが、はたして、3分の一まで減らして、地域の医療体制が守れるのか、確証はありません。また、医療機関にとって、多くのスタッフを雇用することは現行の診療報酬では不可能です。人件費によって、新しい機械を購入することもできなくなるでしょう。つまり、質を担保するには高く付くということです。その財源はどこにあるのでしょうか？日本の医療費は三つの財源からまかなわれています。保険料、税金、そして、個人の負担です。保険料は個人と企業が折半しています。増加する医療費をカバーするには、この三つを上げていくしかないのです。保険料や税金が上がれば、窓口での支払額が増えることを容認しない限り、私は根本的に、日本のヘルスケアの質の改善はないと思っています。

厳しい時代となりました。どうしても勝ち取らねばならないものがあるとすれば、それは自分たちが努力しなければ手に入らないということだと思います。だからこそ、本当に必要なものは何かという、根っこの議論が今求められていると思います。ともかく、私たちは医療安全を含めたヘルスケアの質向上に向け、今できるすべてのことに取り組んで参ります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

島田病院 院長 島田 永和

< 島田病院 理念 >

人間愛と確かな技術に基づき
職員全員による患者さま本位の
ヘルスケアサービスを通し
地域の積極的な健康づくりに
関与する病院を目指します

< 使 命 >

良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

< 職員憲章 >

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で支援します

インフォメーション

診療部

老年医学(高齢者医療)について <その1>

島田病院は整形外科、リハビリテーション科を診療の中心とした病院ですが、医療法人はあつふるグループの組織の1つでもあります。はあつふるグループには、高齢者医療に密接に関係する施設や組織が多くあり、島田病院は高齢者医療を提供することに対して非常に恵まれた施設と思います。では高齢者医療とはどのように定義できるのでしょうか?社会的には65歳以上を高齢者と定義することが多いようです。その高齢者の方が日常生活で自立する機能が低下し、その人らしく生活していくことが困難になってきた時に高齢者医療(老年医学)というヘルスケアが関与するという考え方です。

島田病院は整形外科的なことはもちろんのこと、運動機能の低下、日常生活動作機能の低下、生活習慣病の克服などの面を中心にサポートをさせていただくことを現時点において主として取り組んでいる施設です。今後もよりよい業務の改善への取り組みをおこなっていきます。私自身も今後、老年医学(高齢者医療)に関して、糖尿病以外に老年病専門医(日本老年医学会認定)としての意見を多角的に述べさせていただければと思っています。それが高齢者医療ひいては高齢者の皆様に少しでも参考となり、お役に立てていただければ幸いです。

(内科医長 植田 秀樹)

看護部

私たちの仲間を募集しています!

ぜひ、皆さまのお近くでお仕事を探されているベテラン看護師さん、今年卒業見込みの看護学生さんがおられましたら、ご紹介下さい。

看護部は現在、病棟と外来、手術室を勤務部署とし、ひとりひとりが専門職として誇りをもち、確実に丁寧な看護サービスを提供することができるような仕組みを作り上げているところです。ひとつは、共に考え問題を解決する能力を

育成するために、教育プログラムを進めております。

もうひとつは、医療事故防止、感染対策など患者さまに安全な医療を受けていただくために、スタッフが主軸となるチーム活動です。

総務課または看護部長へ直接ご連絡下さい。

私たちと一緒に良いサービスを提供しましょう。

(看護部長 森下 幸子)

セフティ・アシュランス委員会

当院では患者さまの安全を確保するために、「セフティ・アシュランス委員会」を設置しています。

委員会は医師、看護師、パラメディカル、事務職など職種で構成し、医療安全のためのシステムづくりを行っています。

患者さまの安全を確保するためには、医療者の不断の努力が重要ですが、それだけでは十分であるとはいえません。患者さまおよび家族の方がたの協力が必要不可欠です。私どもは、患者さま、家族の方がたの協力が得やすいように、

十分な医療上の説明を行い、納得していただいた上で診療を行っています。

安全で安心できる医療を実現するためには、患者さまが積極的に医療に参加できるような雰囲気や環境を作ることも重要であると考えています。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(診療部長 麻酔科医 河崎 収)

ヴィゴラス教室のご案内

1 ランニング【要予約】

開催日: 2月9日(水)・16日(水)・23日(水)

開催場所: 島田病院地下1階 ヴィゴラス

開催時間: 3日とも 19:00~20:30

講師: トレーナー 久保田 祐介

費用: 1回1,050円(税込)

募集人員: 各回15名

内容: スポーツの基本であるランニングのフォームを習得

2 ベースボールトレーニング【要予約】

開催日: 2月26日(土)

開催場所: 島田病院地下1階 ヴィゴラス

開催時間: 15:30~17:00

講師: 理学療法士 溝口 大五

トレーナー 西村 貴宏

費用: 無料

募集人員: 20名

内容: 野球の動作に基づいたトレーニングを多く実践

持参するもの: 運動できる服装、上履き 更衣室を利用していただけます。

お問合わせ・ご予約は _____

はびきのヴィゴラス(TEL/FAX 0729-53-1007)

足関節捻挫(外側靭帯損傷)のリハビリテーション

足首の捻挫は日常よくみられるスポーツ外傷で、サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの競技でよくみられます。

また日常生活でも段差で捻って受傷するなど、よくみられる外傷のひとつです。捻挫は「無理がきくケガ」と思われがちですが、不完

全な状態でスポーツ活動を再開すると、不安定性、筋力低下などが残存し、捻挫の再発などの後遺症を招くこともあります。

捻挫の中でも多い、足首を内側に捻ることで外くるぶしの下にある靭帯を損傷する足関節外側靭帯損傷のリハビリをご紹介します。

急性期

～炎症を抑える～

受傷直後はRICE処置(Rest安静・Ice冷却・Compression圧迫・Elevation挙上)を行います。捻挫の重症度によって包帯固定、サポーター固定、ギブス固定(1～2週間)などを行います。

回復期

～足首の動きと筋力の回復を図る～

固定がはずれば、本格的なリハビリの開始です。

固定をはずした後もしばらくは捻挫したときと同じ動き(足首を内側に捻る)は控えます。



足首を内側に捻らないように外側に開く筋力を強化します。



足を1歩前に踏み出します。足首を捻らないように親指側に体重をかけるように気をつけます。



片足でかかとあげをします。スポーツをしていない場合でもこれができるまではリハビリを続けます。

復帰準備期

～スポーツ特有のフットワークの練習と再発予防～



ジャンプの練習をします。走り始める目安となります。



不安定板の上でトレーニングを行います。不安定な状態でも足首を捻ることがないようにします。柔らかいものの上で行っても同じ効果があります。



反復横とびなどフットワークの練習をします。このときも足首を捻らないように親指側に体重をかけるように気をつけます。

スポーツ復帰

捻挫の重症度によってこれらのリハビリにかかる期間は異なります(1週間～6週間程度)

「リハビリテーション」の基礎知識

その3

-「第三の医学」-

リハビリテーション医学は予防医学や治療医学とならび「第三の医学」と呼ばれています。現代社会において、医学そのものは飛躍的な進歩を遂げましたが、その副産物として重篤な病気やケガでそれまでは死に至った人々が、後遺障害を持ちながら生きていかなければならない現実が増え、社会構造の変化によって交通事

故や労働災害といったものも増えてきました。いわゆる疾病構造が大きく変化してきたのです。

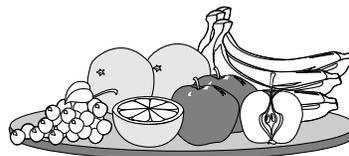
十分な治療を行っても、疾患によっては身体的・精神的な障害が残ってしまうケースも少なくない。そこで、障害を抱えたままでも家庭や社会への復帰を支援する「第三の医学」の必要性が出てきたのです。



~ ちょっとトクする話 ~

健康食材シリーズ 5

あなたは毎日 果物を食べていますか？



「21世紀における国民健康づくり運動」として厚生労働省が策定した「健康日本21」では、2010年までに、毎日果物類を食べる人の割合を60%以上にすることを目標に定めています。国民栄養調査によると、毎日果物を食べる人の割合は29.3%に過ぎません。年代別に見ると、特に20代～30代で摂取量が少なく、より積極的な摂取を心がけることが必要とされています。

果物にはこんな効果があります！

ビタミンC

肌を若々しく保つ 鉄の吸収を促進
抗酸化作用による動脈硬化予防・がん予防

ビタミンE

動脈硬化
心臓病の予防

カリウム

高血圧の予防

葉酸

アミノ酸の生成に必要とされる
特に妊娠中の女性にとっては大切な栄養素

食物繊維

便秘の解消・予防
体内の余分なコレステロールを排泄

カロチン

発ガン作用を抑えたり
免疫機能を活性化

~ 健康のため、果物は200g以上とりましょう! ~

100gの果物ってどれくらい？

バナナ	1本	キウイフルーツ	1個	みかん	1個
オレンジ	1/2個	グレープフルーツ	1/2個	リンゴ	1/2個
もも	1/2個	ナシ	1/2個	パイナップル	1/8個



果物の中でもっとも豊富に栄養素が含まれているのは何か知っていますか？

それは「アボカド」です。アボカドにはビタミンEをはじめカリウムや食物繊維など他の果物より数倍も豊富に含まれています。そのままでもサラダにいれても美味しくいただけます。和風の海鮮サラダなどに1センチ角くらいに切っただけでもとってもよく合います。お試しください!!
最後に・・・アボカドは栄養素が豊富だけあって意外に高カロリーな食材です。実はアボカド1/4個は卵1個と同じだけのカロリーがあるのです。
毎日とるならバナナやキウイフルーツ・オレンジをおすすめします。

島田病院では、このニュース・レターが病院と患者様を結びコミュニケーションツールとなるよう願っています。ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「きくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。